



その想い



第6号

発行人：谷泰智
28年12月5日発行

★大瀧山でいろいろやってます！

去年の秋は大瀧山頂上でヨーガを行いましたが、今年は植物の観察を主として山内を散策してきました。

夏からぼちぼちと独りシダ刈りを進め、難所にはロープを張り何とか10月30日を向かえることができました。

この日は、檀家様の川瀬卿宥さんを植物ガイドとしてお招きしました。川瀬さんは、道々で参加者それぞれの目に留まった植物について丁寧に解説してくださいり、また、普段私が気にも留めていなかった植物についての意外な知識も与えて下さいました。

総勢10名という少ない人数でしたが、川瀬さんのお話を聞きながら歩くのには丁度いい具合で、天候も正に秋晴れ、山頂からは遙か石鎚山や瓶ヶ森が綺麗に見えました。



散策をして各自が気に入った場所でお弁当を食べた後は、天台宗に受継がれる『止觀』という瞑想を体験してもらいました。

座禅とは少し趣が異なる止觀ですが、皆さん熱心に私の拙い説明に耳を傾けてくださいました。約10分間の短い瞑想でしたが、この日の山での色・声・香・味・触・法を通して、己と自然との調和に精神を落ち着けていくことができました。来年春にも開催しますので、どうかお知らせをお見逃しなく！

★高知県仏教会の研修旅行に参加してきました

日本には、大きく分けても13宗と言われるほど多くの仏教宗派があります。普段はその枠内にとどまり各自の宗旨に則って活動をしていますが、時にその枠を大きく飛び越え、共にお釈迦様を思慕する『同じ仏教徒』という和を以って、お互いに研鑽しあう組織が高知県仏教界です。

11月9～10日にかけて、現在高知県の会長様が執事を務められている奈良の長谷寺を中心に、京都の西本願寺、永観堂、詩仙堂、聖護院とまさに宗派の垣根を超えて拝観をさせていただきました。



普段はなかなか他宗のお寺にお邪魔する機会がないのですが、この日は堂々と自分の宗派の袈裟をつけてお参りさせていただきました。

旅すがらお話を伺うと、宗の違いよりも、同じ宗内での派の違いのほうが、かえってその違いを強調してしまう傾向があるようです。

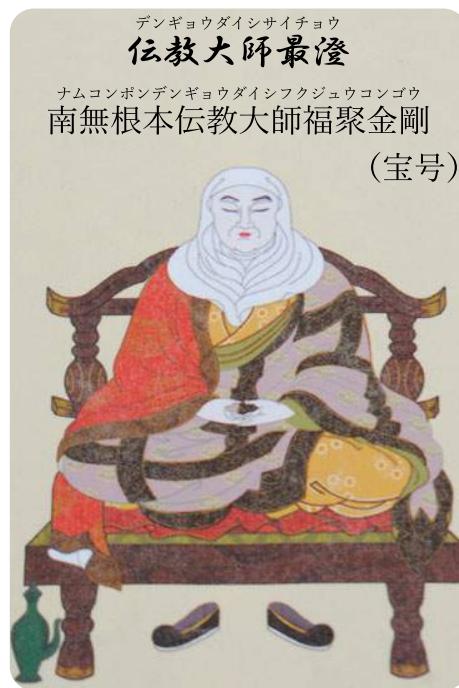
しかし先に述べた通り、御釈迦様への崇敬という大前提をもとに本来仏教徒は和合すべきであり、法華経にもそう説かれています。

ましてや、この先は僧侶同士が相照らしあい、各宗派の更なる可能性を模索すべき時代であると思います。今回、大先輩方の和に添えていただきましたことを、甚だ感謝致す次第です。



★回りて向かう～仏壇について その三～

前号の1ページでもお伝えした通り、仏壇中央に祀られている阿弥陀様については次号に譲り、今回はその両脇に祀られた天台大師（右）と伝教大師（左）について、さらには位牌を祀る威儀についてズバリお答え致します。



・そもそも護国寺の宗派とは？

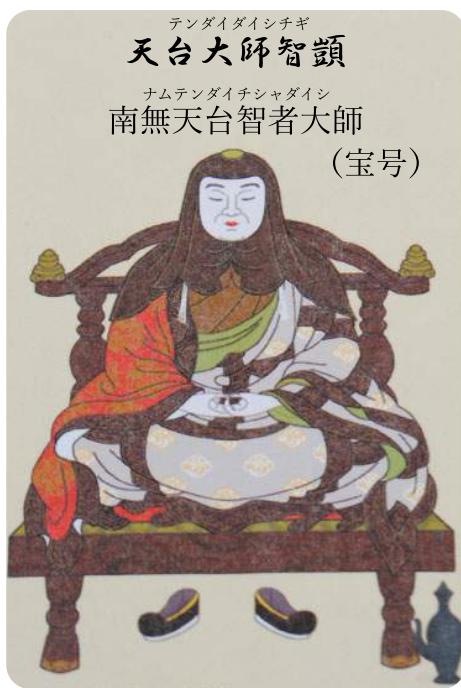
第1号でも明記しておりますが、護国寺は本山修験宗の寺院です。

修験とは、主に山岳に於いての厳しい修行を通して自らの五感を浄め、森羅万象の中に神仏を感じていく仏教の実践体系を意味します。

大きく分けて天台宗と真言宗、それぞれの修験があり、本山修験宗は天台宗寺門派の法脈を受継いでいます。

私も山修行の際には鈴懸と呼ばれる山伏装束に身を包みますが、日常本堂に於いては天台宗寺門派の威儀に則り、葬儀や法事にあたっております。

ですから、檀家様の御仏壇も基本的には天台宗の形式をお奨めしております。



・天台大師智顕（右）（538～597年）

『定慧双修』という禅定と智慧を深める修行を生涯を通して実践し、その境地を最も如実に表した経典こそが妙法蓮華経であるとする天台思想の基礎を築かれました。

天台という名は、予てから道教の聖地であった天台山に智顕が隠棲され、その山中の華頂峰で大悟を得し、以後その入寂の時まで天台山を活動の拠点とされたことに由来します。

当時の中国は南北朝時代の末期であり、南朝の梁に生まれ後の陳そして統一王朝隋という戦乱の時代を生きた智顕は、権力者の勢力の下に踏みにじられた多くの市井の人々の絶望と悲しみをその肌身で感じて来られました。後に総合仏教と呼ばれる形態を成す天台宗ですが、そうなる所以として、広く世を利する為にはその土台は豊かであろうとする智顕の想いがあったのかもしれません。

・伝教大師最澄（左）（767～822年）

智顕の思想を受継ぎ、「宝とは道心なり。道心ある人を名づけて国宝となす。」との言葉通り、日本の将来の国宝を育成するための大きな土台を固め、不滅の法灯を燈しました。

現在の滋賀県比叡山の麓に生まれた最澄は、エリートの家系に生まれ頭脳明晰にして求法の念も人一倍であったにも関わらず、19歳で正式な僧侶になった途端、自らを愚中極愚の凡夫であるとして宗教的懺悔を起し、崇高な発心によって比叡山に12年間籠ります。

徹底的に己と向き合い、自身が成すべきことを確信した最澄は、その後入唐の機会に恵まれ天台山に登ります。帰国後は、弘法大師空海と並んで、それまでの日本に既にあった雜部密教を大きく更新する純部密教の普及に努めました。以後現在でも、比叡山からは最澄の志を継ぐ多くの国宝が山を下っています。

・なぜ位牌を祀るのか

『心のよりどころ』、悲しいかな昨今はどうして無難で安易な言葉に聞こえてしまします。が、しかし、敢えて位牌の意義を問われるとすれば、これにはもう「心のよりどころとして下さい。」としか、私には言いようありません。

牌という名が付くことからも、その成り立ちは中国の儒教文化に根差しているのは間違いないのですが、加えて日本古来からの神道に見られる、祖靈が降りて来られる為の『依り代』としての側面もあります。

「位牌を置く必然性は何なのか？」などの少々の懷疑も、「ただ何となく、昔からの風習だから守っていこう！」という心のゆとりに変えて、どうかこの先も大事にしていただきたいものです。それで決して損はないはずですから・・・。

お知らせ

※経典をお求めの方はお気軽に護国寺までお電話ください。

1200円程度でお買
い求めいた
だけます。



★檀家さんに聞く



もうすぐクリスマス、クリスマスと言えばケーキ、ケーキと言えばイチゴです。♡
今回紹介する檀家様は日高村では珍しいイチゴを栽培されています。

ポカポカと温かいハウスの中で、ニコニコと取材に応じてくれました。



日高村大和田在住の
山崎静子さん
村内のイベントでたこ
焼きの出店もされてい
ます。

④うわあ～、広いですねえ！

①まあなにしろ苗がようけ要るけたまらん。7000から8000ばあいるきねえ。1番、2番、3番と一つの株のなかで順番に実っていくわね。品種は全部『紅ほっぺ』やけど、今年は本当に枯れなもん！病気がいっぱい！ようよう獲れよらあね。

④一つの株から何個ぐらい獲れますか？

①そうねえ・・・、例えばこの株やったら花が12ついちゅうわねえ。あととにかく枯れを除けて養生せないかんのは大変でえ。

④順番に実らせていくことには何か工夫があるんでしょうねえ。

①そらあね、芽が出てきた時に専門家の人に顕微鏡で見てもうたりもしゆう。それこそこの間JAの指導員の人が来てくれちょっと「1番を7、2番を5、3番を3の七五三で獲ってみてください。」って言われたけんど、なかなか難しいで。(笑)

④やっぱり12月のクリスマス前の出荷が多いですか？

①うん、日高の渋谷食品さん(芋屋金次郎)のケーキにのせてもらひゆうで。けんどねえ、だいたい12月から収穫が始まるがやけど、最初に獲るのは粒が大きいがよ。でもケーキ屋さんが欲しいのは粒が小さいほうやきねえ、逆やつたらぼっちりいくがやけんど。(笑)

④日高村では珍しいイチゴを始めようとしたきっかけは？

①もともと20年間ナスを作りよったがよ。けんど、うちハスも立派じゃないし台風の時分のビニールの張替えも大変やろ。その点、イチゴは夏場のビニールを張らんでいいって人から聞いてねえ、それで始めてみたがやけんど、イチゴの高設栽培をやりゆうがは日高村ではうちだけよ。(笑)

④地床じゃなくて高設栽培でやる理由は何ですか？

①ん～、地床はずっとしゃがんでやるのが大変よ！(笑)

ランナーと呼ばれるツル状の茎の状態を見定める山崎さん御夫婦。
作業のほとんどを二人三脚阿吽の呼吸でこなします。

けんど高設でずっと立って作業するのもぞんがいしんどくなってきた。(笑)

④暖房はどうやって効かしゆうがですか？

①土の中にボイラーで温めた温水が流れるパイプが通つちゅうがよ。けんどそのボイラーも26年の豪雨で浸かってしもうて買い換えた。この高設の苗床も全部浸かったで。あれは本当に大変やった・・・。隣のハウスに株を並べて台においちよったのが、全部ハウスの端へ流れて固まっちゃったきねえ。

④1年を通して一番やりがいを感じるのはどんな時ですか？

①そりあ、イチゴが実ってハウス一面が真っ赤に色付いたときは壯觀よねえ、お父さんとしばらく眺めよ

ミツバチも受粉を助けて
大活躍。



根付いたランナーから新しい株ができます。



らあね。それに、この先は寒くなる
温室のハウスに入ったらホッとする
のが、唯一の安らぎよ。(笑)
でもねえ、こないだらあ夜にハクビ
シンが入っちゃったにかわらん。そ
れで朝、それも大きなピンクの糞が
あるがよ。まあどれればあイチゴが食
べられたかという事よ！(笑)



お経のことば

すなわち、生死流转の世界において實には消滅する
ことも誕生することもありません。
世界は、人々がこれが世界であると見るようなもの
ではありません。 妙法蓮華經 如來壽量品第16 訳 大角修

ここでは今までに2回、妙法蓮華經を取り上げていますが、今回紹介いたします如來壽量品は、この經典の中で最も親しく読誦されているものであり、且つ法華經の神髓が説かれる章にあたります。

惟るに、法華經とは誠に不思議な經典であります。例えるならまるでマトリヨーシカのように、法華經に登場する無量の仏・菩薩・善男子・善女子さらには護法善神とされる神々までもがその法華經を読誦し讀えているという、まさに法華經の中に法華經があるという構成になっています。

そして二廻三会^{ニショサンエ}という時空間を超越したスケールでお釈迦様の説法は展開され、また法華七喻と呼ばれる衆生教化にあたっての方便が巧みに語られます。第1号で紹介しました法句經とは全くといっていいほどその趣は異なっており、初めて法華經を読まれる方は恐らくその壮大な世界觀に圧倒されることでしょう。

さて、上の言葉は如來壽量品の前半『亦無在世 及滅度者～不如三界 見於三界』を意訳したものになります。

結論から申しますと、「消滅することも誕生することもない」とは、つまりそこに永遠を見出すことなのです。なぜ生死流转の世界の中で永遠を見出し得るのか、それには自我という認識が果てしなく広がった先にある、『自分は大いなるものの一部である』という気づきが必要なのです。

一見、甚だ思い上がったかのような気づきに見えますが、それはまったく自惚れではなく、調和という『安心』なのです。なぜなら、自我の認識を広げるその主体とは我欲による煩惱の食指ではなく、他者への共感による慈悲の眼差しからです。

その眼差しによって、世界を正見する時、全てのものは一つであることがわかり、また唯一のものが全てに遍く満ち充ちていることがわかるのです。ここで言う他者とは、なにも人に限らず、人も含んだ自然万物諸事一切のことです。例えば人間の経済活動を取り上げても、日々数字と格闘する人たちのお蔭で社会の信用は担保され、当たり前に車が走るのも汗を流して道路を作った人がいるお蔭なのです。

また、唯物的に言い換えて、人ひとりを構成するの全ての細胞は外界の自然との間で行われる供給と排泄の関わりによって、その体躯と恒常性が維持されており、それも調和なくしては成り立たないのです。

斯くて生死とは、まるで小さな自我の井戸の中から見上げる星空のようなもので、もし我々が法華經の教えに習って無限の地平線に解き放たれたならば、そこには果てしない星空が広がり、我々は本来永遠の生命の調和に包まれていることに気づくのです。

法華經に説かれる世界とは、ここじゃない何処かではなく、我々が日々生きるこの世界のことであり、そこで如何に生きるのかを御釈迦様は説法されています。

● 1月28日（土曜日） 解る！般若心経

午前9時と午後3時の二回 護摩の後に般若心経を解説します

● 3月20日(月祝日) 第二回献茶彼岸会

午前10時と午後2時（各自お位牌とお茶碗をお持ちください）

● 毎月28日 柱源護摩供・ヨーガ体操

柱源護摩供は午前9時と午後3時の2回です。

※葬儀が重なると変更される場合があります。

護国寺

781-2155

高知県高岡郡日高村九頭291

0889-24-7244

ホームページ gokokuji.site

仏事に関してのお悩み、ご質問、
行事に関するお問い合わせ等、
お気軽にお電話ください。

